

り、小学校から地域の方々などがゴミ拾いをしては、旗をリレーしていくことで、川を美化する意識をつなぐという取り組みが行われており、これまで何万人の人がゴミを拾ったということをPRしています。

そのほかにも、行政が流域と一体となって、流域の基金を使っている事例や農産省管轄の土地改良区にある農業用水路に堰を造り、さまざまな施設管理者が協働して魚道を作ることで取り組みが繋がっている例もあります。

田中: 行政との連携は難しいこともあります。地域を超えた流域では、意外と共有可能なことが多い点に着目していくといいのではないかと思います。

次は逸見先生へ質問をいただきました一般参加の藤本様より、よろしくお願いします。



藤本: 白川の水質を改善する必要があると思いますが、どのようにお考えですか？

逸見: 白川よりもむしろ八代海北部が基準をオーバーしていることが多いようです。白川の河口には、ハマグリ以外の生物も豊富で、水質もそんなに問題ありません。一般に、海や川の水質が悪いというのは、富栄養という意味です。富栄養化が仮に進んだとしても、少なくとも食べて何も問題ありません。ただし、場所によっては、夏の富栄養化が引き金となって貧酸素が起これ、生き物が死ぬことがあります。特に有明海の北部は顕著です。そういった事例もあることはあります。ですから上手に家庭排水や畜産排水をコントロールして、富栄養化を防ぐことも必要です。

田中: それでは九州エンジニアリング・山口さん、ご質問をお願いします。

山口: ハマグリ自体、1個体でどれぐらいの稚貝を産むことができるのですか？

逸見: 少なくとも1個体のハマグリが何万もの卵を産むのは間違いないですね。海の生物は非常に多くの卵を産みますが、どのうちどれくらい生き残るか。球磨川の鮎も、それが重要なですね。だから決して卵の数が少ないのではなく育つ環境がない。アユの産卵場を改



善したり、稚魚をどう生き残らせるかがカギ。ハマグリの生息地である河口についても県と一緒に環境再生に取り組んでいます。

山口: 稚貝の定着や成長を左右する要因は、環境が原因なのでしょうか？

逸見: 特に海の生き物は環境に左右されやすく、ハマグリも稚貝の数が大きく変動します。ただし、環境要因は今一つはっきりしません。稚貝が多い年になるべく多く定着させて、それを上手に育てていくことが大切です。現在は、増えた分を一気に採ってしまうため、分けて採ろうという取り組みは、県でも随分前からやっています。

田中: 松崎さんへの質問は、独立行政法人港湾空港技術研究所の中川様、よろしくお願いします。



中川: 例えば、閉校する学校の数、山間部と流域ではどちらに多く分布するのでしょうか？

松崎: 正直、山間部の方が多いと思われます。おそらく交通の便が大きな要因となっていたり、山間部の方が町村合併が進んでいるように思います。菊池では水源小学校が2012年に閉校になりましたが、実は4校同時に閉校しました。熊本では新しい学校を立ち上げた例もありますが、山間部で新設校を開校したという事例は少ないですね。

逸見: 松崎さんがこのプロジェクトをどのように運営しているのか、そんなに多くの人がいるとは思えない中で、どうしてこんなことができるのか、話を聞いて驚きました。

松崎: 基本的に住民の方、全員が会員ですね。実際に活動しているのは300名ぐらいで、役員もすべて地域の方でやっていただきます。

区長を含めた理事会を2カ月に1回行い、地域の課題や取り組みの方向性など話し合いながら進めています。理事会でないにしても、今行っている農水省の事業では随時有志が集まってもらい、必ず皆さんから意見を聞くようにしています。

一人のお母さんから「私が死んだら旦那さんの食事どうしたらいいの？」という声が上がりました。確かに高齢化に伴い、食事の課題は重要です。そこはタクシーが来るぐらいで、交通の便が非常に悪い。このような地域の方たちの意見を形にするために、農水省の予算で「どういうニーズがあるのか」などを調査したいと考えています。集落営農に関しても、後継ぎがないというのが現状です。次世代にどうつないでいくか、新規就農の取り組みを含めて、農地を守っていくことが深刻な課題です。

私は“よそ者”の視点で水源地区を元気にしてほしいと依頼されましたが、実は地域づくりは3年半しかやっていません。ストレートに地域の意見を吸い上げることが大事だと思いつつ取り組んでいます。

田中: 実際、“よそ者”に対する地域の考え方が激変しています。総務省が「地域づくり協力隊」という“よそ者”を受け入れる事業も行ってですね。

松崎: NPOを立ち上げて11年目になり、韓国やヨーロッパなど外国の方も含めて、“よそ者”に対する壁は比較的低い地域です。私は今年の春に引越しをしました。水源地区には入りませんでした。なぜかという、事業を行う上でそれが弊害になる部分もあり、取って“よそ者”に徹する道を選びました。空き家が増えていますが、皆さん家を貸さないんですよ。仏壇があるからとか、荷物が片付かないからとか、家を貸し出すことでお金を儲けるという事は恥ずかしいという意識が強く、借主が地域のルールを守ってくれるのかという不安もある。“よそ者”をオープンに受け入れて交流できるようになってきた一方では非常に壁があることも感じますね。

田中: 地元の人が守っていたルールに、“よそ者”が入ってくると変えなくていけないケースも出てきますが、それが難しいですね。それでは会場からご質問やご意見をお願いいたします。

千原: 熊本では約15~16年前まではアサリやハマグリがたくさん採れていましたが、急速



に減少し、今もそのままです。逸見先生のお話にあった通り、関係者だけではなく消費者も協働でルールを決めてやっていかなければならないと思います。

田中: すごく大事な視点ですね。消費者もちゃんと熊本産を買うなどできることはあるということですね。

千原: また、緑川源流域から下流域まで2万人も集う浄化作業に、中学生・高校生・大学生の参加者が非常に少ないことがとても残念です。白川でも行っていますが、まだ球磨川はやっていないのでは？

田中: 堂園さん、緑川の活動でも、住民からの発案で始まったという話もありますね。

堂園: 一斉にやる取り組みは全国的に色々な河川でやっています。着任した時に球磨川で、すでに行っている方々もおられ、行政がある特定の日に一斉にPRするよりも、元々の活動に光を当てる方が自然だろうと思ったんです。これまで同様に活動していただき、私たちがそれを周知するための旗を作ったんですよ。その旗をめぐることで、参加した人が旗にリボン結びつけることによって、それをもとに行政がPRするという取り組みを全国で初めて球磨川で行いました。以前、長良川でも一斉

ゴミ清掃を行いました。ゴミ拾い開きの日には、日ごろ活動していただく老人の方々に学生が焼き肉、焼き飯、おにぎりなどをふるまって、交流するんですが、その日は学生がたくさん来るんですよ。孫のような年齢の若者たちからふるまいを受け、交流できることが、お年寄りの楽しみや支えになったという事例の一つですね。

田中: では、最後の質問を若い学生さんをお願いしたいと思います。

前田: 有明海ではなぜ貧酸素水塊が起きているのか、またその対応を教えてください。



逸見: 貧酸素水塊の原因は主に二つ。閉鎖海域に流れ込んだ有機物が堆積して影響することと、もう一つは、海岸を埋め立てたり、防波堤を作るなどの事業を進めたことが挙げられます。工事によって海流が非常に弱くなり、例えば川から流れ込んだ淡水が海水と層を作ってしまう、貧酸素が起これと考えられます。その対応については、流れをよくすることで、閉鎖海域をさらに閉鎖しないようにすることですね。

田中: 最後に、パネラーの先生方から一言ずつコメントをお願いします。

堂園: 今日は大変勉強になりました。一般の方の「自分は専門家ではないがこう思う」とい

う意見は大変参考になります。ありがとうございました。

逸見: 今回、特に拠点形成研究、文系の先生、あるいは社会科学の先生、行政やNPOの方にもご参加いただきました。今後の展開なども踏まえ、ご支援いただければこの研究も広がりのある研究ができるのではないかと期待します。よろしくお願いたします。

皆川: 副題に「自然環境・社会環境創生のための」と掲げてありますが、これからは科学だけでなくさまざまな人の協力や、情報の共有化、資源管理など、持続的な社会づくりに向かって進むべきだという事を再認識しました。ありがとうございました。

松崎: 地域づくりに考えていただく機会になったんじゃないかなと思います。これからは、終活という言葉がありますが、地域や学校をいかにクローズするかという終着点を考えながら、携わる必要があるのではないかと考えています。

田中: このキックオフシンポジウムが、皆さんにとって「これからやるべきことのきっかけ」になれば、幸いです。本日はどうもありがとうございました。



Pick up

平成26年度 キックオフ・シンポジウム アンケート集計結果 24名回答(出席者50名)

本シンポジウムで、よかった点の一つ、教えてください。

▼多かった意見

○色々な立場の方からの意見を聞くことができて面白かった。

▼その他の意見

○話が専門的すぎないところがよかった。
○言うべきことが言える場がよい

本シンポジウムで、悪かった点や改善点の一つ、教えてください。

▼多かった意見

○講演時間20分は短いと感じた。講演が駆

け足になったのが残念。

○今後、実際にどんな活動を進めていくのかわからなかった。

▼その他の意見

○パネルディスカッションの時間をもう少し長くしてほしい。

本拠点形成研究に期待されること、ご要望をお聞かせください。

▼全意見

○活動内容を広くアピールしてほしい。

○行政からも相談させていただくことが多々あると思いますので、よろしくお願いたします。

○河口の環境が良くなること。

○大学での活動が広く地域住民に広まり、協力が得られること。シンポジウム名に表れ

るように、その関係業種にしかわからない、既に門前払いをしているような説明を一般人にわかるように工夫するのが多くの人に浸透するきっかけになると思う。

○行政で仕事をすすめていく上で、「環境保全」という言葉は広く理解されるようになってきたが、個人レベルまで落とし込むのは難しいため(損得勘定が絡むため)、そのあたりの研究事例等が多く挙がってくれば広く県民に浸透すると感じた。

○自然の状況を知り、環境保全のために何をすべきかという行政・産業・住民の含意形成の中核としての役割を期待します。

○異なる専門分野、異なる職種を問題毎に最適に組み合わせて地域貢献してほしい。

○豊かな自然環境を次の世代まで残してほしい。